

# 特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 教育支援部 発行  
令和2年度 第4号（3月18日）

3月も半ばとなり、1年間一緒に過ごした子どもたちとの毎日がまもなく終わろうとしています。振り返ると、様々な制約のある中で工夫を凝らしながら、少しでも子どもたちのためにできることをしようと奮闘した1年だったのではないのでしょうか。一方では、もっとできることがあったのではと省みる先生もおられるかもしれません。長かった休校期間を取り戻すべく、懸命に子どもたちと向き合っただけだったことと思います。そんな先生方との日々がかけがえのない思い出となって子どもたちの心に刻まれることでしょう。新年度に向けて、前を向いていきたいですね。

## ■ 引き継ぎについて

年度末において、各施設間で子どもたちに関わる引き継ぎが行われることと思います。具体的には就学前集団保育施設と小学校、および小学校と中学校との間において情報交換の場が設定され、丁寧な引き継ぎがされています。特に、支援を必要とする子どもについては、各コーディネーター間で情報共有をしたり、参観をしたりするなど年間を通して様々な機会を作ることで、スムーズな接続に向けた取り組みが行われています。連携のあり方については保育所保育指針、幼稚園教育要領および学習指導要領に明記されています。そのような取り組みの成果もあり、小学校や中学校において充実したスタートができたという報告が増えてきています。しかしながら、引き継ぎをしているものの適切な情報共有が行われず、4月以降に再度問い合わせが繰り返されるといった例も少なくありません。情報をもらう側においては、求める情報が得られにくいといった実態も聞かれるところです。特に保幼小連携においては、情報を伝える側である保育所・幼稚園等と伝えられる側である小学校とでは子どもに求めるべき姿に違いがあります。このことについては、園文化と学校文化との間に明白な違いがあり、保幼小連携とはその異なる文化の間を橋渡しすることであるとの指摘から考えることができます。例えば、遊びの中での学び、個と集団の違い、環境を重視する幼児教育と、一方で学校では時間的な区切りや教科等の学習があるなどそれぞれの文化が大きく異なっています。そのため、教職員の意識や子どもとのとらえ方においても違いがあり、伝えたい情報と伝えてほしい情報とに差があると考えられます。

そのような課題を受けて2015年に行われた、保育所・幼稚園等の保育者を対象とした調査において明らかになったことを紹介したいと思います。対象を幼児教育に限定したのは、支援を必要とする子どもに関わる意識調査は、学校教員に対してはしばしば実施されているものの幼児教育を担う保育者を対象とした同様の調査は多くなく、さらに情報の引き継ぎに焦点をあてたものはきわめて少ないといった実態があったからです。また、情報の引き継ぎにおける保育者の意識が明らかにな

ることで、育ちや学びの連続性をふまえた保幼小連携を行うことにつながると考えられます。

調査の結果明らかになったことの一つは、保育者の担当するクラスによって子どものとらえ方における意識の違いがあったということです。このことは、保育者は子どもの定型発達に基づいて評価を行っていることを示唆しています。友だちに興味を抱き始める2歳児と、コミュニケーションが活発になる5歳児とでは、担当する保育者がどのような姿を気になる姿ととらえるかにおいて違いがあるということです。幼少期であるほど発達が未分化であるため、特徴的な行動に気付きにくくなり、保育者の意識に影響を及ぼしている可能性があると考えられます。そのため、特別支援教育を柱とした園内の支援体制の構築は重要であると考えられます。

もう一つは、保育者が引き継ぐべきであると考えている子どもの姿について、集団生活における不適応が中心であったということです。「みんなと一緒に行動しない」「落ち着いて座ってられない」「授業（保育）中に奇声・大声やおしゃべりが多い」などの姿は、発達障がいに見られる姿と重なる部分が多いと考えられます。冒頭にあった、得られにくい情報（ほしい情報）とは発達障がいに関わる情報が大半であり、そうするとこの調査の結果から伝えてほしい情報と伝えたい情報は一致しているということが言えます。

適切な情報伝達が難しいことの要因として発達障がいに対するとらえ方の違いや、目立つ子ども中心の引き継ぎといったことが考えられます。情報を伝える側は様々なことを最大限伝えようとしている一方、情報を伝えられる側はその陰に隠れて見えにくい子どもたちのことで困り感を抱えています。そのような子どもたちに関する具体的な見立てを、今後は施設間で共有していくことが求められます。明らかに特別な支援を必要とする子どもたちと、そうでない子どもたちとの境界にいる子どもたちへの見立てについて、情報交換ができる関係づくりを大切にしていきたいと考えます。そして、充実した引き継ぎが行われることで特別な支援を必要とする子どもたちの学校生活がよりよいものとなり、所属を越えた支援が継続すると考えられます。

最後になりますが、1年間ありがとうございました。次年度においても伊賀・名張地域の特別支援教育のさらなる充実に向けて尽力していきたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

参考：清都・菊池「保育所・幼稚園における支援を必要とする子どもの情報共有と小学校への引き継ぎのあり方についての研究」発達障害研究第42巻第3号

（文責 清都）

#### 令和3年度の予定

学校見学会 6/17(木)

福祉事業所向け学校見学会 7/5(月)

小学部公開体験授業 6/9(水)、9/15(水)、10/12(火)

中学部公開体験授業 6/14(月)、9/16(木)、10/25(月)

※変更になる場合があります。新年度になりましたらホームページ等でご確認ください。